

# 東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2023

## 「にこやかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第1回 10/6 (金) 13:30～15:00 報告

心理臨床と物語 ―奈良と岐阜をつなぐ中将姫の物語から―

講師 工藤 昌孝 (本学准教授)

於：図書館大セミナー室

\*◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*

本日の講師は心理カウンセリングと物語の関係について話しました。その一例として、中将姫の物語を取り上げました。

工藤先生は奈良出身であり、中将姫の物語の舞台である二上山の近くで育ち、この物語を地元の話としてよく聞いていました。また、本学に近い岐阜市大洞にも、中将姫にゆかりのある願成寺の中将姫誓願桜があるというご縁もあって、今回の講座の題材に選びました。

心理カウンセリングでは、臨床心理士などのカウンセラーは様々な悩みを抱えている人の「想いを聴き、発見的に生きる支援」をします。心理カウンセラーは学校や職場の生活と人間関係、子育てや介護、性格傾向、心身の健康、生き方など、多岐にわたる相談内容を聴きます。いじめや虐待などのトラウマの経験を抱えている人の相談にあたることもあります。カウンセリングでは、心のまとまりや生き方の方向性を見失っている来談者の想いや感情を傾聴し、自らの「物語の紡ぎ直し」や「心の再構成」を支援することになります。カウンセリングの中では、絵や写真、たとえ話や夢、物語、ドラマ、アニメなどが語られることもあります。来談者自らの内的イメージに照らして重なる話題であることがあり、そこからさまざまな生き方に開かれていくことがあります。そうした自然と湧き出るイメージを通じて心全体の緩和と方向付けの調整がなされ、回復されたりして、来談者が癒され、自分らしい解決を見出すことを目指しています。

そこで心理支援と関係の深い物語の一例として、中将姫の物語が紹介されました。中将姫物語は継母からのいじめを乗り越えて、人生に新しい意味を見出した人の話なので、虐待やいじめで居場所を失い苦難を生きる人と向き合う際の助けになることがあります。

工藤先生は中将姫の物語を次のように説明しました。奈良時代の右大臣藤原豊成とその妻の紫の前は長い間子どもができなかったが、奈良県桜井市の長谷寺の観音に祈願したら天平19年(西暦747年)に女の子を授かりました。誕生の夜に天皇は夢の中で異形の僧に会い、初子に早く官名を宣許せよと言われたため、その嬰兒に三位中将の官名をお許しになられ、中将姫と呼ばれるようになります。中将姫は小さいうちから美しく賢い子として知られるようになります。しかし5歳のときに母親は亡くなりました。父親は2年後に照夜の前と再婚しました。あるとき中将姫に実母の声が聞こえ、照夜の前に宿世の縁で恨まれることになるであろうが慎んで生みの母と同じように孝養を尽くすようにと言われました。お告げの通り、継母は中将姫をいじめたが、母親の声に言われたようにすべて耐えていきました。継母はいじめを発展させ、やがて何度も殺害を企みましたが、殺害計画はどれも成功せず、自分の子どもの死につながったりします。14歳のとき、父親が諸国巡視の旅で不在の

ときに、継母は今度こそ中将姫を殺そうとしますが、頼んだ家臣は亡き母の供養を怠らず継母の救いも願う優しい心を持っている中将姫を殺せませんでした。乳母の娘が身代わりを申し出たことで、娘の首で照夜の前を欺きまして、家臣は妻とともに中将姫をつれて山に逃げて隠れて暮らしました。父豊成が都に帰ってくると中将姫の死を告げられて嘆きますが、翌年に狩のために山へ入ったら偶然に娘と再会し、都に連れて帰ろうとしました。しかし中将姫はむしろ仏道に進みたく、當麻寺の尼となりました。當麻寺で称讃浄土經一千巻を書写して、また蓮の糸を集めることで生身（しょうじん）の仏が現れ當麻曼荼羅が織りあげられました。こうして仏道の精進を続け、29歳のときに阿弥陀如来に迎えられ、極楽浄土に導かれました。

また、當麻曼荼羅は古代インドの女人受難伝承を題材にしていますので、中将姫の物語にいくらか反映されています。その伝承の中で韋提希夫人は息子に殺されそうになり、お釈迦様に助けを求めます。韋提希は阿弥陀仏の西方極楽浄土への往生を願いましたので、釈迦に阿弥陀浄土を観想する方法を教えてもらいました。落日を見つめることからはじめ、水、地、木などから仏へと浄土全体を想い描くように言われました。阿弥陀浄土の観想はトラウマを抱える人に必要とされている、約束された安心安全感をもたらします。また、西方に沈む夕日は阿弥陀仏と重なるものでもありました。二上山の夕日は當麻寺曼荼羅堂の後ろへ暮れますので、おそらく中将姫にとってその寺はいくらか極楽浄土に近かったです。

さて、中将姫と岐阜市大洞とのつながりは为什么呢。大洞にある願成寺によれば、中将姫は難を逃れようとしているときの長旅の途中で疲れて婦人病にかかりました。願成寺の観音様に祈ったら治りました。感謝の表れとして一本の桜を境内に植えて、「桜よ、いつまでも私に代わって、ここの観音様をお守りしておくれ。また観音様、この桜の花や葉を大切に持つ夫人があれば、女の身にしか分からない心身の悩みから解放してやってください」と祈りました。その桜の木はまだまだ1200年以上の樹齢で毎年咲き続けています。

このようにして中将姫の物語と彼女にまつわる場所は、當麻曼荼羅の流布や人々の受苦をめぐるさまざまな想いから各地に残されてきたものであり、いじめや婦人の悩みに見舞われている人の癒しに役立つことを容易に想像できます。

工藤先生の講座はとても興味深く、中身の濃い話で、受講者に大変感心されました。

#### 【講座の様子】

